

論点メモ（案）

論点 1 森林の現状と都市自治体が取組む森林管理の意義

（1）森林管理の現状と課題

①手入れされない森林の要因

- ・長年にわたる森林の経済的価値の低下（木材価格の低迷、薪炭等の需要減）
- ・人手不足（森林を有する地域の過疎化・高齢化、労働条件の不利）
- ・基盤整備の遅れ（林道整備の遅れ、森林境界や所有者の不明） 等

②近年の森林・林業に係る状況変化

- ・林業への追い風（森林資源の蓄積、立木価格の下げ止まり）
- ・働き方としての林業への注目（自伐林業、地域協力隊等）
- ・木材利用の広がり（再生可能エネルギー、CLT、木育）
- ・多様なニーズによる森林整備（里山活動、マウンテンバイク・キャンプ愛好家による森林整備）
- ・法制度の整備（森林経営管理法、木材利用促進法）
- ・森林への社会的な期待（脱炭素、地域振興、生物多様性の保全等） 等

（2）都市自治体の課題と森林政策の意義・必要性

①都市自治体の現状・課題

- ・業務量の増大（森林整備計画、森林経営管理制度、施業の監督、補助金等）
- ・人材の不足（職員数、専門知識・技術）
- ・都市自治体内の山村地域と都市部の格差（人員や財源の配分、行政効率化の弊害）
- ・森林経営管理制度や森林環境譲与税による都市自治体の森林管理の責任増大
- ・森林環境譲与税の使途と効果（配分の偏り、使途の制限、使途に困る自治体の存在） 等

②都市自治体による森林政策の意義・必要性

- ・法令に基づく林務と都市自治体の主体的な森林政策の関係
- ・都市自治体の重要政策課題との関連性（脱炭素、地域振興等）
- ・森林に関わる多様な主体との関係（林家、森林組合、企業、NPO、市民等） 等

論点 2 都市自治体の取組みに関する検討

（1）施策の立案・実施の要点

①地域の森林・林業に係る現状把握及び森林・林業関係者や市民との将来像の共有

- ・森林政策に係る総合的な構想、計画の制定
- ・森づくり委員会等による市民参加
- ・市民が森林に触れる機会の創出 等

②地域経済循環や脱炭素化等への森林の位置づけ、都市・山村のニーズ・資源等の活用

- ・地域活性化に資する地域産業等とのネットワーク構築

- ・地域エネルギー政策と森林保全・活用の位置づけ
- ・都市と山村の人・資源の連携（カーボンオフセット、木材利用、森林教育等） 等

（2）森林整備・林業の担い手支援と行政の推進体制の構築

①森林組合やNPO等への支援・連携

- ・地域の事情に応じた森林組合やNPO等への支援・協働
- ・施業地、活動の場としての民有地の斡旋
- ・地域の森林管理を担う中間団体の必要性 等

②都市自治体の体制（組織、人材、専門性、自治体連携・役割分担）

- ・庁内の複数部署の横断的な施策実施
- ・人材育成制度
- ・都市自治体同士の人材交流、都道府県との協力、役割分担 等

論点3 今後の都市自治体の森林政策のあり方

（1）森林政策の立案・展開の方向性

- ・市民を含む多様な主体が森林政策に参画する意義、まちづくりとの連携の重要性
- ・脱炭素化、森林環境譲与税への対応 等

（2）都市自治体の特徴（規模、樹種、産業、歴史等）に応じた政策展開

- ・地域に合った森林の保全・活用の方向性
- ・地域内、地域外の人と資源の調達、協働 等